

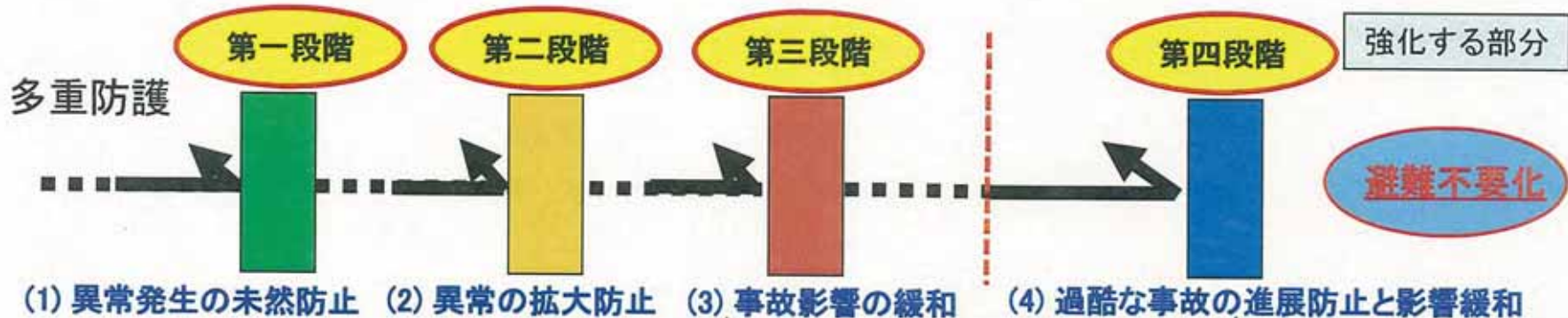
**添付資料 A.
高速炉の安全性**

高速炉の安全確保の考え方

- 多重防護の設計
- 「止める」「冷やす」「閉じ込める」
 - 軽水炉と同様の基本となる安全設計の考え方
- ナトリウムの化学反応に対する対策
 - 原子炉の安全に影響しないようにする
- 過酷な事故への対応を取り入れた安全設計
 - 自然にはたらく安全機能を取り入れる
 - 止める⇒自然に止まる
 - 冷やす⇒自然に冷える
 - 閉じ込める⇒原子炉容器の中で+格納容器の中で閉じ込める
- 福島事故が起こったとしても「止める」「冷やす」「閉じ込める」を可能とする
- 国際的な議論を通じて構築される安全設計クライテリアに適合するようにする

高速増殖実証炉の安全設計の考え方

多重防護の第四段階を強化して、第三段階の安全装置が働かない場合にも、自然に「止める」「冷やす」ができるようにし、さらに、炉心が溶融したとしても「閉じ込める」ができるようにする



	設計基準事故	進展防止	影響緩和
<p>異常がおきにくい設計</p> <p>◆ 余裕ある設計</p> <p>◆ 検査で確認</p>	<p>止める</p> <p>2つの原子炉停止系 (センサと電気回路で作動)</p>	<p>受動的炉停止機構 (自然に作動)</p>	<p>閉じ込める</p> <p>原子炉容器内での閉じ込め</p> <p>格納容器内での閉じ込め</p>
	<p>冷やす</p> <p>自然循環による冷却系(複数用意) (自然に作動)</p> <p>アクシデントマネジメント (代替りの手立てを用意)</p>		